

第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第27号）の集計結果

第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

1. 処分量の推移

平成18年度の産業廃棄物処理業者の処分量は3,463千トンである。この内、中間処理量が3,090千トン、最終処分量が374千トンとなっている。平成17年度と比較すると中間処理量が423千トン増加し、最終処分量が2千トン減少している。

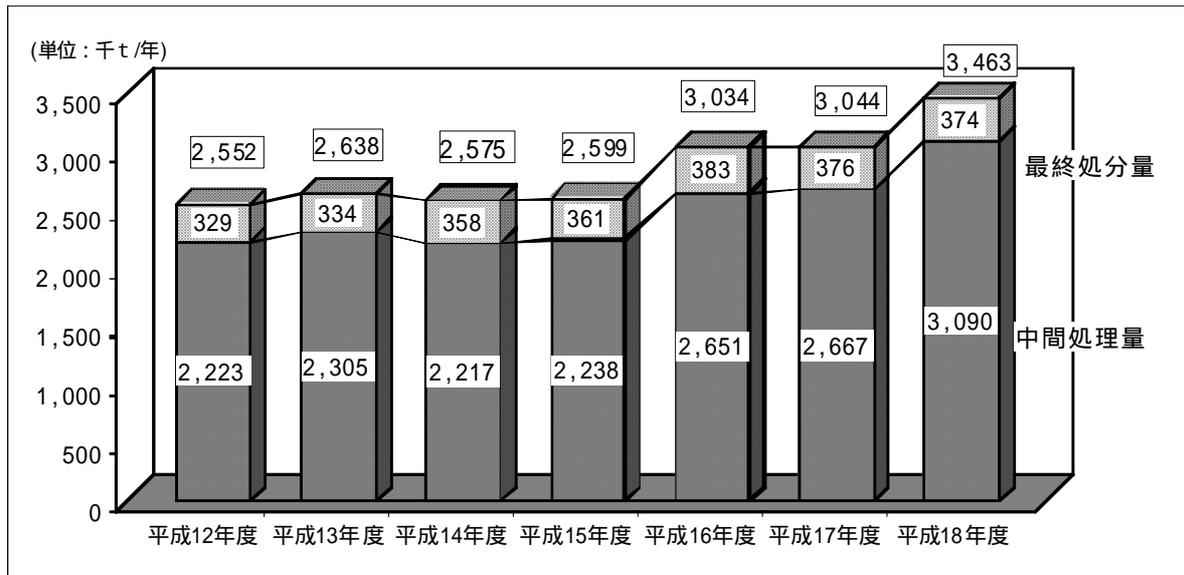


図 3-1-1 処分量の推移

2. 処分方法別の中間処理量

産業廃棄物処理業者の中間処理量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が2,591千トン（84%）で最も多く、次いで、「焼却」が123千トン（4%）、以下、「脱水」が103千トン（3%）等となっている。

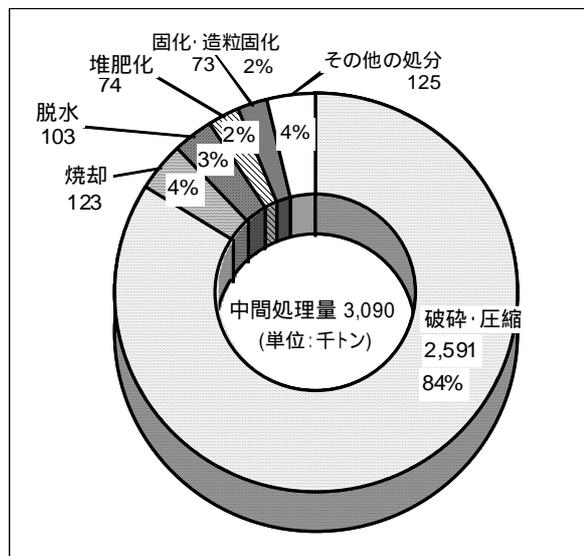


図 3-1-2 処分方法別の処分量

3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が 2,162 千トン(70%)で最も多く、次いで、汚泥が 250 千トン(8%)、木くず 245 千トン(8%)等となっている。最終処分量では、汚泥が 80 千トン(21%)で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 78 千トン(21%)、ガラス・陶磁器くずが 55 千トン(15%)等となっている。

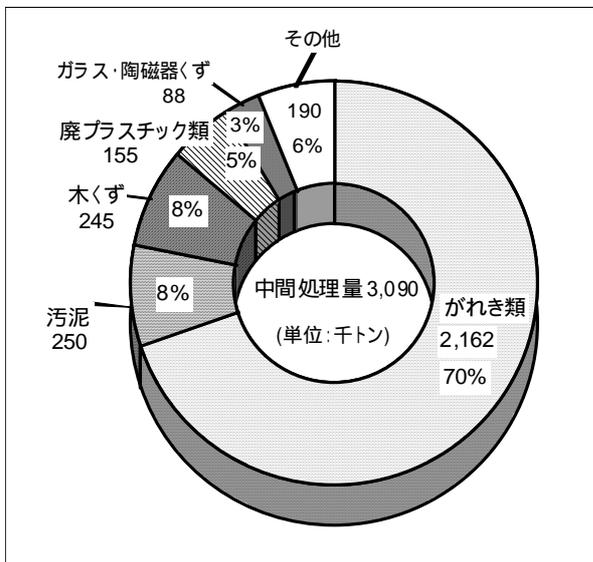


図 3-1-3 種類別の中間処理量

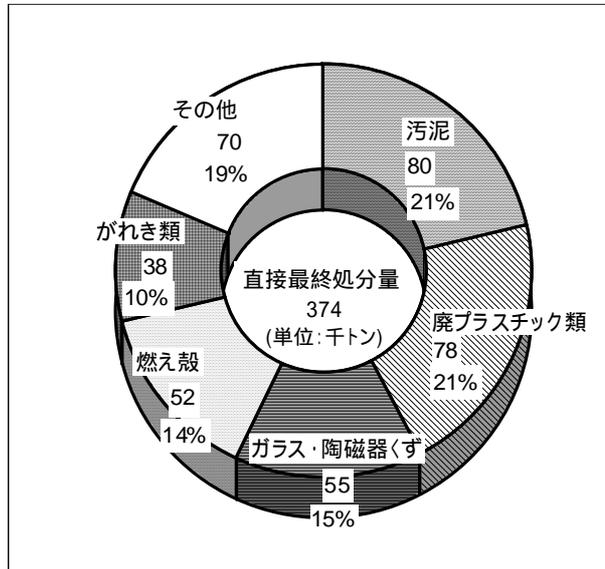


図 3-1-4 種類別の最終処分量

第 2 節 県外から県内への搬入量

1. 県内搬入量の推移

平成 18 年度の県内搬入量は、377 千トンである。この内、中間処理目的が 195 千トン、最終処分目的が 182 千トンとなっている。平成 17 年度と比較すると中間処理量が 33 千トン減少し、最終処分量が 41 千トン増加している。

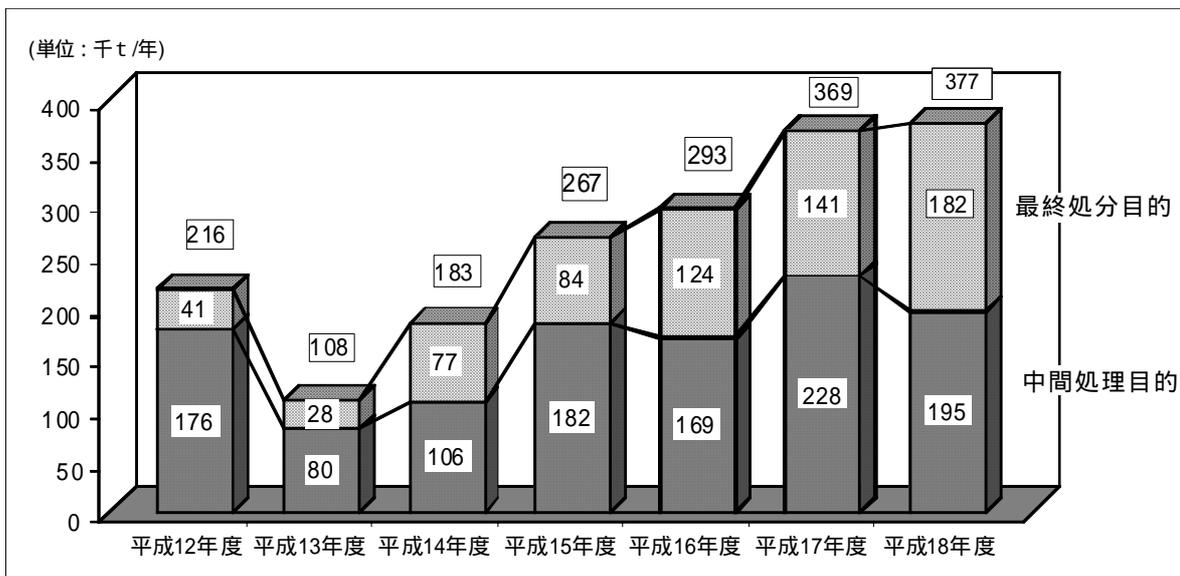


図 3-2-1 県内搬入量の推移

2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、木くずが 46 千トン（24%）で最も多く、次いで、がれき類 35 千トン（18%）、廃プラスチック類が 35 千トン（18%）等となっている。最終処分目的では、汚泥が 50 千トン（27%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類 47 千トン（26%）、13号廃棄物が 26 千トン（14%）等となっている。

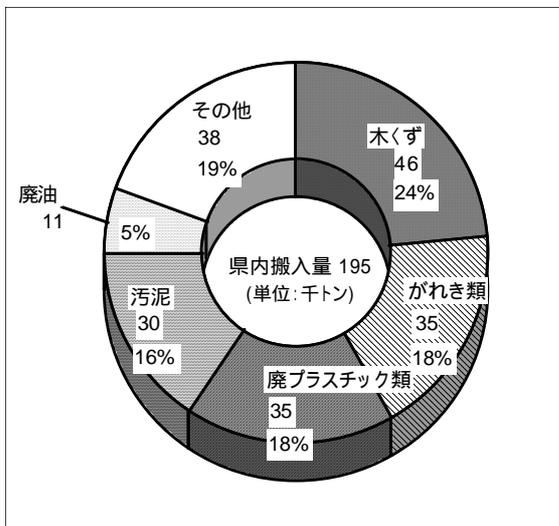


図3-2-2 種類別の県内搬入量（中間処理目的）

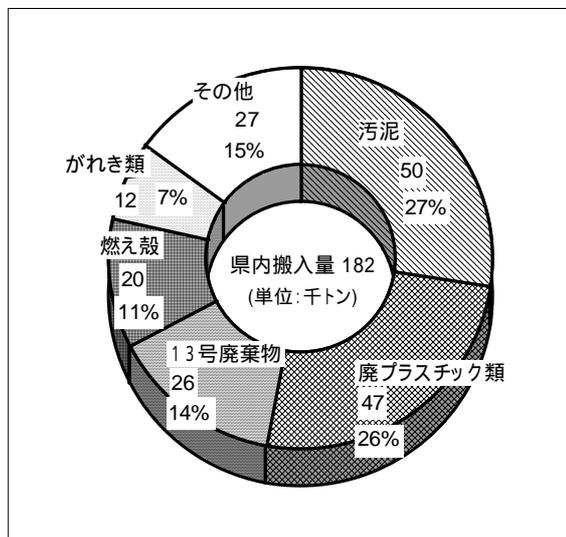


図3-2-3 種類別の県内搬入量（最終処分目的）

3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が 98 千トン（50%）で最も多く、次いで、関東が 93 千トン（48%）等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が 152 千トン（83%）、次いで、中部が 23 千トン（12%）等となっている。

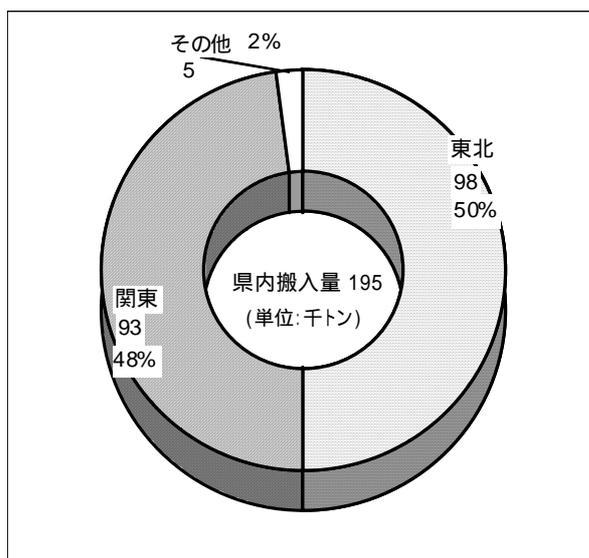


図3-2-4 地域別の県内搬入量（中間処理目的）

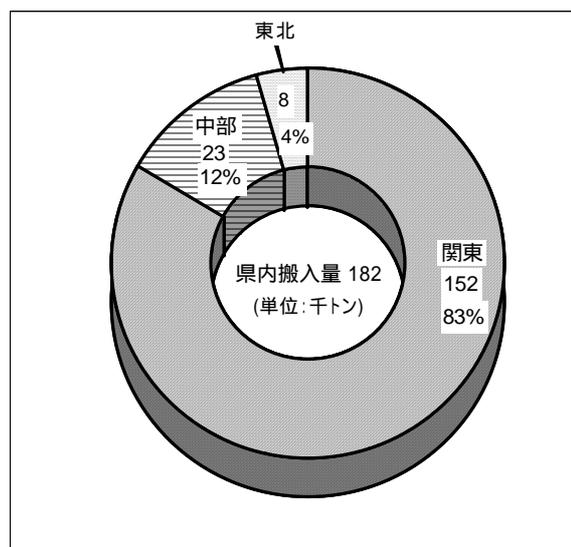


図3-2-5 地域別の県内搬入量（最終処分目的）